



創立130周年を迎えるための論議活発（平成28年度評議員会開催）②



第137号

福島大学
人間発達文化学類
同窓吾峰会 会報

平成二十八年度も五か月が経過しました。この間、評議員会で承認いただいた各種の事業も計画通り実施されてきました。これも各支部のご理解とご協力によるものであり、厚く御礼申し上げます。後半の事業も趣旨が十分達成されるように精一杯取り組みますので、よろしく願います。

さて、本会にかかわる大切な情報として、同窓吾峰会創立百三十周年記念事業と母校の組織の問題がありますので、その概要をお知らせいたします。

同窓吾峰会創立百三十周年記念事業について

本会は平成二十九年度に創立百三十周年を迎えますので、各種の記念事業を計画しています。（会報参照）中でも記念の大会を、平成二十九年九月十日（日）、郡山市ホテルハマツにおいて開催いたします。

準備は、郡山支部が中核となつて立案した企画委員会の計画に従つて着々と進められています。郡山支部では大会を成功させるために、基本方針として「“おもてなしの心”を大切に」など五項目を設定するとともに、大会スローガンとして「支え合い、高め合つて一三〇年 ぎずなを

同窓吾峰会会長
齋藤 正寛

ご協力に感謝

～本会と母校の動向～



研究奨励事業 ⑥⑦



福島を訪ねる ⑬（編集後記）



今、学校現場では ⑫

深め、輝く母校に」を掲げ、印象に残る大会にしようと努力しています。

その一つとして、「楽都郡山市」の良さを生かした「二二〇お祝いコンサート」を取り入れましたのでご期待ください。

大学関係について

○教職大学院の開設
平成二十九年四月に現職教員と一部学類卒業生の定員十六名でスタートします。研究コースはミドルリーダー養成コース、教育実践高度化コース、特別支援教育高度化コースの三つで、実践力、授業力、探究力など教員としてのより高度な資質能力の育成を目指します。課程を修了した教員が本県が抱える教育課題の解決に積極的に取り組んでくれることを期待しています。

○農学系人材育成組織（農学類）の設置
本県の復興には基幹産業

である農業の再生が基盤となることから、総合科学としての農学を研究する学士課程レベルの教育研究組織の設置が望まれていました。大学では早期の開設を目指し準備を進めていますが、最も中核となる施設設備は現在の金谷川キャンパスに決定、農学研究・実践活動センター（仮称）は郡山市を予定しています。

開設は平成三十一年四月で一年遅れます。今後はカリキュラム、施設設備、教員組織、学類編成など重要な問題の検討があります。同窓会として心配する点は農学類の入学定員が各学類の定員を削減して充てることになった場合、準会員である学生からの入学時の協力金収入がかなり減額します。その対応が必要になります。



希望を胸に社会へ 卒業祝賀会 ⑮⑯

平成二十八年年度

吾峰会評議員会開催

来年度に創立百三十周年を迎えることと

相馬大会を確認し合って散会する！

平成二十八年度の評議員会は、去る五月十四日(土)に福島大学人間発達文化学類大会議室で開催された。遠くは、北海道支部二名、愛知支部二名、岩手県支部二名の出席もあり、会は滞りなく進められた。

(内容の詳細については、各支部の評議員より報告があったと思われるので、省略するが、会計報告・予算書についてはHPに掲載) 今回の中心議題は、来年度が創立百三十周年を迎えることと相馬大会の確認であった。

長谷川件七郎相馬支部長より相馬大会についての説明があった。なお、中村日出彦副会長の代わりに県南地区の代表として郡山支部の柳沼秀雄氏が副会長に選任されたとの報告があり確認された。また、創立百三十周年記念大会は郡山市で開催の予定である。

今年度の主な事業計画は、同窓吾峰会相馬大会
十月八日(土)開催
研究奨励応募締切
九月二十日(火)まで
会報発行
一三七号・一三八号
ホームカミングデー
十月二十九日(土)予定
入会歓迎「卒業祝賀会」
三月二十四日(金)



朝賀教授あいさつ



谷教授あいさつ



千葉学類長祝辞



安達支部長情報交換

最後の情報交換では、県内の安達支部と県外の岩手県支部の状況報告があり、それぞれの課題について共有できた実りのある評議員会であった。



岩手県支部長情報交換

大きな課題である。岩手県支部(小野寺評議員)・隔年ごとに支部総会と研修旅行を実施している。今年度は研修旅行で福島市を訪れる計画である。

記念大会の成功を願って

新副会長 柳沼秀雄



このたび、副会長に選出され、長に選出され、責任の重さを痛感しております。前任者の中村日出彦副会長の業績を見習い、勉強をしながら頑張りたいと思いますので、ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

同窓吾峰会は明治二十一年に設立されて以来、百三十年の輝かしい歴史と伝統を誇る活動を展開してまいりました。諸先輩の設立精神の継承と努力により時代の流れに対応し変遷しながら、現在の姿になったことを理解し、また後世に引き継いで行かなければならぬと感じます。

「創立百三十周年記念大会」は、平成二十九年度に県南地区で開催しますが、県南各支部長の協力により会場は郡山市会場となりました。大会の基本方針と概

順 序

◎永年勤続支部長感謝状贈呈式

- 1 開会のことば 学生歌斉唱
- 2 会長あいさつ 新任理事・幹事紹介
- 3 人間発達文化学類長あいさつ
- 4 来賓紹介
- 5 報 告
 - (1) 平成27年度吾峰会主催卒業祝賀会について
 - (2) 創立130周年記念事業報告
 - (3) 組織強化委員会報告
 - (4) 「大震災後の福島県教育復興を進める会」の活動について
- 6 議長選出
 - ・議事録署名人選出・記録者紹介
- 7 議 事
 - (1) 平成27年度事業報告並びに会計決算報告
 - ・同監査報告について
 - (2) 平成28年度事業計画(案)並びに予算(案)について
 - (3) 平成28年度研究奨励事業研究募集
 - (4) 会報137号・138号の編集計画
 - (5) 各支部活動のインターネット更新依頼
 - (6) 創立130周年記念事業にかかる協賛金の件
 - (7) 平成28年度以降吾峰会大会開催順序
 - (8) そ の 他
- 8 諸 連 絡
 - (1) 「福島大学学生教育支援基金」
 - (2) 平成28年度賀寿慶祝、その他事務連絡等
- 9 情報交換
- 10 役員選考委員選出について
- 11 閉会のことば

その結果、大会スローガンを「支え合い、高め合って百三十年 きずなを深め輝く母校に」と掲げ、(1)記念式典 (2)130お祝いコンサート (3)祝賀会 の三部構成とする予定です。

時代が変わっても、先輩の方々が築いてきた吾峰会の存在意義は変わりません。これからもよろしくご支援ご協力をお願い申し上げます。ごあいさついたします。

(昭三六卒 郡山支部)

新支部長に就いて

耶麻支部長 矢部 有一

この度、耶麻支部長という私にとっては重い役を務めさせていただくことになりました。宜しくお願いいたします。

昨秋、前支部長の佐藤先生が急逝されました。支部長を引き受けてくださる方を私なりに探してみましたが「おまえがやるしかない。」という返事ばかりでした。そんなことで、否応なく支部長を引き受けることになりました。

五月の評議員会に出席したときは、諸先輩の先生方が並んでいる姿を拝見し、若輩の私が支部長の役を務めることができるのかという思いを強く持った次第でした。

ところで、耶麻支部はここ何年も総会を開いてなく活動も取り上げるようなことはない状況でした。そんなこともあって、先輩の先生から

「吾峰会はどうなってるの。」と聞かれると、返答に困るような状態でした。

支部長という役を引き受けたので、何とかしなければという気持ちだけは大きくなるばかりでした。



在りし日の佐藤雄前支部長

そこで、自分が一人で頑張ってもできることではないので、一緒に手伝ってもらえる仲間を声をかけることから始めてみようと思いました。

五月に、事務局の喜多方一小の渡部教頭先生にお願ひして、場所を借りて、五人に集まってもらいました。顔ぶれは吾峰会耶麻支部をこれから背負っていきけるメンバーと言える人たちです。

そこで、耶麻地区の組織について相談しました。とりあえずは名簿の作成というところで進めています。七月には委員会を開催し、来年度総会が開催できるようにして行きたいと思っています。

不安だらけでスタートしたところですが、仲間の力を借りながら取り組んでいきたいと思っています。

(昭四五卒 耶麻支部)

特集 あれから六年め…Ⅰ

文集「うけど」を作成して

浪江町立請戸小学校長

小山 智恵子

「本校は、福島県内で一番太平洋に近い学校なんですよ。」

教頭として請戸小学校に勤務していた時(平成十九年度、平成二十一年度)来校者にそう言って学校紹介をしたものでした。一歩外に出ると磯の香りがし波の音が聞こえ…。不思議と心が落ち着いたので覚えています。たくさん地域の方々が学校の教育活動にかかわってくださり、まさに「地域の方々と一緒に子どもたちを育てていくのだ」を実感させてくれたところでした。

それがあの日を境に海に近い学校がゆえ、すべて流されてしまいました。幸いにも子どもたちは全員無事に家族のもとに帰ることができましたが、笑顔をもう二度と見ることができないという現実も…。

昨年四月、校長として請戸の地に入りました。六年ぶりに思い出多い校舎に入り、涙がとまりませんでした。今私がやらなければならぬことは、何なのか、

何ができるのか…。

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難から五年が経過しました。請戸小の校舎は、現在も震災当時のまま残っています。ガランとした一階の各教室、鉄骨がむき出しの天井、大きな穴があいたままの床、校内を巡視しながら津波のすごさ、激しさを感じ、一瞬足がすくんでしまふ時があります。二階から遠くを見れば集落はなく、行き来するたくさんさんのトラックや重機、山積みになった瓦礫。見るたびに地域の人の無念さや子どもたちの悲しみが伝わってきます。

請戸小学校は、現在臨時休業中です。子どもたちはそれぞれ県内外に避難して区域外就学し、校長を除く教職員九名は県内各地の学校に兼務職員として勤務しています。

浪江町は、平成二十九年四月の帰還を目標にしています。当然浪江町立小・中学校も町内に再開されるこ

とになりますが、どれだけの児童・生徒が新たに浪江町の学校で学ぶかはまだまだ不透明の状況にあります。

震災当時在籍していた一年生もこの三月に小学校卒業となりました。避難先での生活に慣れ、新しい友だちができ、楽しく毎日を過ごしているとの便りにとてもうれしく思っています。でも人と人とのつながりが厚く温かいあのふるさと請戸がだんだん忘れられていくのではないかと思うと、やはりいつの日か請戸に行きたいと願う子どもになってほしい、一人ではない、家族はもちろん友だち・地域の方々が応援しているんだという思いを持って強く

前に進んでいってほしいと思います。そんな願いを形にしたいと今年二月、当時在籍していた子どもたち、請戸小学校に就学する予定だった子どもたちに呼びかけ、文集「うけど」を作成しました。子どもたちは、笑顔の写真と一緒に立派に成長したことを実感させてくれる文章も寄せてくれました。でもこの陰にある思い、今まで乗り越えてきたたくさんさんの困難なことに寄り添い、これからの子どもたちの成長を見守っていきたいと思っています。

(昭五六卒 双葉支部)
(文集「うけど」表紙 P12参照)

ふるわしの風景

『蒸気機関車の思い出』



絵は、私の心象風景です。過去の経験と想像で描きました。

私は伊達郡の睦会村の生まれ町村(合併前は桑折町)の僕は、蒸気機関車だった。たしか、小学校へ入る前より蒸気機関車を見に出かけた。蒸気を吐き出し、動き出すあの大きな動輪は何よりも頼もしかった。田んぼのあぜ道を小走りに急ぎ汽笛が聞こえ、胸が高鳴った。土手しがみつき、出発までの動きをくわしく観察した。蒸気機関車を見に行く時のあのドキドキした気持ちは今でも忘れられない。

佐藤 宇一(昭三十六卒)

新たな道

第二の仕事も 福島の子どもたちのために

佐久間 裕 晴

三十八年間の教員生活を振り返る間もなく、四月一日より、三春町にある福島県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」にお世話になっています。

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からはや六年目を迎えています。

未だに多くの皆さんが、県内外に避難していることは周知の通りです。また、県内の小・中学校は、臨時休校六校をはじめ、故郷を離れ、各地区で開校している学校も数多くあります。それらの学校では、通常の学校運営にも多くの課題を抱えています。

そのような中、間もなくコミュニティ福島が開館します。コミュニティ福島は、広く県民の皆様においていただきたい県の施設ですが、未来を担う福島の子どもたちが、「放射線や本県の環境等について学び、主体的に判断し行動する力」や「本県の状況を適切に理解



できる力」を身に付けるための施設でもあります。体験型展示、体験研修スペース等を備えた施設で、特に、全球型シアターをはじめ、最新のIT技術を駆使した体験展示も工夫されています。

ここで得た学びや体験から得た知識、深めた意識を子どもたちや県民・様々な団体が共有し、それぞれの立場から福島未来を考え、創り、発信するきっかけとなる場となつてほしいと思っています。そのための支援

として、来館する小学校への交通費の補助も行います。といっても「コミュニティ福島」は、七月二十二・二十三日にグランドオープンの日です。会員の皆様にはまだ馴染みは薄いかと思いますが、

新たなスタート

いわき市立好間第四小学校長

石見勝則

校庭からは、子どもたちの嬉々とした歓声があがっています。全校生徒が鬼ごっこで遊んでいるのです。四月に校長職を拝命し、好間第四小学校に赴任しました。四月当初は、「教頭先生」と声を聞くと、振り向き、「あつ、もう教頭ではなかった」としきりに反省する日々でした。

私にとって三度目の単身赴任ですが、今までとは全く違うものとなりました。昨年暮れに妻を亡くしました。生前は、「今度単身赴任になったら、私もついていくね。」と口にしていましたが、それもかないませ

ています。模索しつつの日々ですが、スタートから新たなものを創りあげる楽しさも感得しつつ取り組んでいます。県内の子どもたちにとつて欠かせない体験施設となるよう第二の仕事においても、引き続き気力を振り絞ってがんばりたいと思います。会員の皆様のご来館を笑顔でお待ちしております。(昭五三卒 福島支部)

かな中山間地です。前任の校長先生から引き継ぎ、毎朝の通学時には集合場所まで足を運び、児童と一緒に学校まで歩いていきます。保護者の方も一緒に歩き、さまざまなお話を聞かせてくださいます。そうしていると、学校は地域のものだと実感させられます。地域の発展を担っていくのは、まさに今ここにいる児童たちです。少子高齢化の社会の中で、子どもたちは、それこそ「地域の宝」なのだと感じます。本校の運動会は「学区民運動会」で、地域の方々と一緒にを行っています。子どもたちのハキハキ・キビキビした様子を披露すること地域の方にも元気を分け、喜んでいただけたように思います。



目の前のことに全力を注ぐ

福島県立好間高等学校

菅野真平

福島大学に別れを告げ、好間高校へ足を踏み入れてから早くも三ヶ月。この三ヶ月は私にとって毎日が失敗の連続で、いつの間にか七月になっていったという感覚です。上手いかわないかわが多い教師生活の中で、

私は「目の前のことに全力を注ぐ」大切さを感じています。まず、授業(体育)では講師経験のない私にとって全てが初めての内容であり不安が大きいです。しかし、生徒にとっては授業一つひ

校長としては、駆け出しにすぎません。しかしながら、新しいチャレンジを考えながら学校運営を進めていきたいのです。そこにこそ私が赴任してきた理由があると思うのです。たくさんの方の支援をいただきながら、預かった子どもたちの未来のために歩を進めていきたいと思っています。(昭六二卒 いわき支部)

とつが人生で一度しかない貴重な時間です。そこで、私は保健体育専門の校長先生（専門は柔道）にお願ひし、柔道や保健の授業を毎時間観て頂き、助言をしてもらっています。また、少しでも良い授業を目指して最近ではICTを取り入れていきます。もちろん上手くいかないことが多いですが生徒から「今までと違って最近の授業は楽しいです！」と言われた時は、この上ない喜びを感じました。

次に、授業以外の仕事についてです。十個の校務分掌がある私には、どんな仕事が入ってきます。どれも初めてやる内容で、毎回のよう先生方に聞いてやっています。それでもミスはしてしまい、何もできない自分が嫌になることもあります。ですが、見方を変えれば、「学校という組織を知る」良い機会でもあります。なので、これから一つひとつ焦らず仕事を覚え、教師としての幅を広げていこうと思います。

最後は、部活動についてです。私は現在、部員二人の柔道部顧問をしています。柔道の危機にありま。しかし、好間高校柔道部といえば、過去に福島県を十三連覇もしている超名門。そ

人と人とのつながりを知る

三春町立沢石小学校教頭

鈴木浩 記

私が赴任した三春町立沢石小学校は、三春町北西の山間部に位置する全校児童四十六名、学級数は一・二年が各一、三・四年と五・六年が複式で各一、特別支援学級が一の五学級、職員数は十七（県雇用十、町雇用七）の小規模校です。

そんな沢石小学校に、私は新任教頭として赴任しましたが、多くの諸先輩方同様、着任初日から慌ただしい毎日となりました。

特に、入学式を迎えるまでの三日間は、右も左も分らない中、多くの準備が必要な上に、入学式にご臨席いただく新入児童の保護者や来賓の方々へ失礼があつてはと、内心はハラハラの状態でした。実際、来賓紹介で地区名を言い間違える失態をしてしまいました。が、そのことにさえ気付かないほどでした。（幸い、地域の方にも優しく迎えていただいたようで、式後に



この顧問をしている私は、飲み会の度に、当時好間高校で活躍されていた先生方から「好間の柔道を復活させてくれ!!」と言われていきます。私の専門は剣道です。

が、今は、目の前の柔道に全力を注いでいます。名門柔道部復活を目指し、生徒と一緒に汗を流したり、練習試合も積極的に行ったり、校長先生と話をし、柔道部復活の準備を進めています。

社会に出て、上手くいかないことが多いですが、目の前のことに全力を注げば少しずつ道が拓けてくると思います。なので私は、これから失敗と向き合いながら、一つずつ成功に変え、努力を積み重ねていこうと思います。

（平二八卒 いわき支部）



こっそり教えて下さる配慮をいただきました。）

また、四月は年度初めで提出しなければならぬ文書も多く、それらの処理に追われる日々で、かの有名な

な滝桜を観に行く余裕も全くない毎日でした。

それでも、沢石小学校には、小規模校ならではの家庭的な雰囲気があり、校長先生をはじめとして、教職員全員が新任の私を温かい目で見守り、そして支えてくださっていることに、日々感謝しています。

また、町教頭会では、小・中学校合わせて、八人中四人が新任で、同じ立場の間があることも教頭としては心の支えとなっています。

今回、初めての田村地区勤務となったのですが、着任当日に机の上に置かれていた諸先輩方の激励の葉書の

数々や電話での激励、教職員との会話から見つかる様々な人とのつながりを知る中で、自分は多くの人に支えられていることを実感することができました。

赴任から三ヶ月を迎える現在は、ペースをつかめてきたところでもあるので、支えに甘えず、校長先生の意を体しながら、教育目標具現のため、本格的に取り組みたいと考えています。

最後になりますが、これまで支えていただいた前任校の校長先生、地区校長会、吾峰会の諸先輩方に、改めて感謝申し上げます。

（昭二卒 田村支部）

教員一年生!!

南会津町立荒海小学校

小室翔平

四月から、南会津町立荒海小学校へ勤めています。小室翔平です。小学校三年の子どもたちと毎日、楽しく過ごしています。教員になり、初めて子どもたちの前へ出た時は、期待もありましたが、不安の方が大きかったことを覚えています。ですが、初日から、子どもたちの方から話し掛けてくれたり、質問してくれたりしてくれました。この

ことで、不安と緊張はなくなり、「この子たちとなら、楽しい学校生活になりそう」と確信を持つことができました。その後は、毎日の授業をがんばっています。一日の学校生活の中で一番長い時間を住ごすのが授業の時間です。そのため日々の授業をしっかりと行い、子どもたちにとって充実した時間となるようがんばっています。また、休み時間は、



子どもたちと一緒に鬼ごっこやドッジボールをして遊んでいます。さらに、教職

員の方々や保護者の皆様が
とても温かく毎日支えられ
ています。

これからの抱負として、
まずは、初任者研修をしっ
かりとこなしていきたいと
思います。校内研修や外部
研修など様々な研修があり
どれも初任者として知って
いなければならぬ、知識
や技術を学ぶことができま
す。これらの研修をしっか
り受け、学び直しを行っ
た上で、自分の学級の中で実
践していきたいと思ひます。
次に、仕事を一つでも多く
覚えていきたいです。その
ために、疑問を持ったら、
すぐに先輩の教師の助言を
仰ぎ解決するということを
くり返し行っていくたいで
す。また、生徒指導や授業
力の向上のためにも、先輩
からの様々な技術を得るた
めにも、多くを質問し、積
極的に働きかけていきたい
です。そして、常に子ども
たちの前では笑顔でいるこ
とを一番の抱負にしたいと
思います。これから辛いこ
とや大変なことが多くある
と思いますが、子どもたち
の前では常に笑顔で元気な
姿を見せていきたいと思ひ
ます。少しずつ成長できる
ようにがんばっていきたい
と思ひます

(平二八卒 南会津支部)

研究奨励事業

平成二十七年度表彰式開催 最優秀賞は芳山小学校に

研究部長 熊田 喜宣

表彰式の報告

平成二十七年度同窓吾峰
会研究奨励事業表彰式は、
平成二十八年一月二十七日
午前十時半より、福島大学
街なかブランチ舟場第一研
修室で開催された。

今年度の本事業には団体
四件、個人二件の応募があ
り、人間発達文化学類に設
置していただいた審査委員
会での審査の結果、郡山市
芳山小学校の応募論文が最
優秀賞に選ばれ、他の五件

は優秀賞と評価された。

表彰式は別掲次第のよう
に進められ、齋藤会長より
森山道明校長へ賞状並びに
副賞が贈呈された。

表彰に先立ち、栗原審査
委員長より審査経過と結果
の報告があり、特に最優秀
賞については、子どもの学
習過程に着目した授業デザ
インの三視点（焦点化・可
視化・共有化）には提案性
があること。さらに、教師
の授業力量形成に着目した

点に本研究の意義があり、
今後のさらなる追究を期待
したい、との講評があった。

千葉学類長からは、平成
二十九年度開設予定で教職
大学院構想を進めており、
今以上に大学と現場が
密接になると考えているが、
現場の取り組みがなければ
大学も発展しないと考へて
いる。研究は子どもに還元
地域に生きる。今後とも教
員の力量形成につながる研
究を継続されるように期待
したい、との祝辞があった。

森山校長より、発達障害
児にどう対応するかが本研
究のスタートだったが、こ
の児童が一年間で学級に入
れ、共に学び合うことがで
きるようになったのが本研
究の最大の成果である。児

童が育つほど教師の力量が
問われ、それに答えるため
に研究会を含む研究授業を
年間五十回ほど設定して力
量形成に努めてきたが、今
後もこの姿勢を継続したい、
との謝辞があった。

表彰式終了後、昼食会を
兼ねての出席者による懇談
会が開催された。森山校長
より、生き生きと活動できる
ようになった児童の姿を見
て大変嬉しく思うこと、金透
小学校長とは大学の同期で
もあり学校交流を進めてい
ること、郡山市内教員の年齢
構成問題、など貴重なご意見
をお聞きすることができた。

なお、優秀賞の五件につ
いては支部を通して賞状並
びに副賞が贈呈された。

本年度の募集を開始

表彰式次第

- 進行：研究部副部長 笹川二郎
1 開式のことは 事務局長 千葉金之助
2 会長あいさつ 会長 齋藤正寛
3 審査経過報告 研究部長 熊田喜宣
4 講評 審査委員長
福島大学教授 栗原秀幸 様
5 賞状並びに副賞の授与
◎研究題 『ともに支え合い高まり合う学びの
創造』～共創が育む自己肯定感～
研究者郡山支部 郡山市立芳山小学校 様
6 祝辞 福島大学人間発達文化学類
学類長 千葉養伍 様
7 受賞者謝辞
郡山市立芳山小学校 森山道明 様
8 閉式のことは 事務局長 千葉金之助
※懇談会 司会：研究部長 熊田喜宣

入賞作品・入賞者名

《最優秀賞》

- ◎『ともに支え合い高まり合う学びの創造』
～共創が育む自己肯定感～
郡山支部 郡山市立芳山小学校
代表 森山道明

《優秀賞》

- ◎『教科関連で子どもの思考・判断・表現力を
育む』～3学年の言語活動を通して～
相馬支部 青田 伸一
◎『教育の機会均等に挑む』
～黎明期の特殊学級と普通学級における
北海道の実践～
北海道支部 市澤 豊
◎『飯野を発信！ 地域の良さを実感し、
自信を持って伝える飯野っ子』
福島支部 福島市立飯野小学校
代表 大舟木茂夫
◎『言語を通して互いにつながり、
共に学び合うことのできる 児童の育成』
～対話型授業の実践を通して～
福島支部 福島市立庭坂小学校
代表 竹之下道子
◎『豊かな人間力をそなえた子どもの育成』
～9年間で育む『思い』を伝える力(3年次)～
郡山支部 郡山市立湖南小・中学校
代表 吉田明史

去る五月十四日開催の評
議員会を機に、平成二十八
年度研究奨励事業の募集を
開始した。

「募集要項」及び「同細
則」を参照の上、多数応募
されることを期待したい。

研究部から

最優秀賞となった芳山小
学校の応募作品概要につい
ては、本「吾峰」の他に、
福島大学教育実践研究紀要
第二十一号にも掲載されて
いる。また、優秀賞の市澤
氏の作品は、平成二十七年
十二月に(株)福村出版から刊
行されている。

今回の応募作品の審査委
員会は、学類の数学科教育・
学校福祉・国語科教育・障
害児教育・授業研究を専門
とする五名の教員によって
構成された。

ここ数年の表彰式におけ
る審査委員長の講評の中で、
「せっかくの着想がまとめ切
れていないものも散見される。
研究に大学の教員を巻き込
んでほしい」との話が出さ
れている。千葉学類長も、
祝辞で現場と大学とのつな
がりに期待を寄せている。
大学との連携や指導を仰
ぐこと等については、例え
ば、福島大学附属総合教育
研究センター現職教育部門
などを窓口にしたを進められ
ることをお勧めしたい。

想い出



退職後のことなど

八 卷 良 子

前号一三六号に載っていた「日本画」私の道のり」を書かれた佐藤常さんは私の同期であり親友である。第一回目の個展は、曾根田の写真館で開かれ、同級生大勢で出かけて見せてもらった。今度は行けなかったが、吾峰会の会報で見ることができて嬉しかった。早速電話をしたら大変喜んでくれた。常さんはもう県展に出品する大作に取り組んでいるとのこと、本当に尊敬できる友人である。そんなことから私も、懐

かしい同級生や上級生たちが近況を発信しなくなった。卒業してから三十七年間、病氣一つせず教員生活を送ることができた。研究授業や研究発表などでドキドキすることもあったが、学校へ行きたくないと思ったことは一度もなかった。上司や同僚、担任した子ども達に恵まれていたことが第一である。現職時代にも楽しいことはいっぱいあった。振り返ればなつかしい。退職後、墨彩画を少し習った。展覧会まではできない

が、銀行のギャラリーなどに時々飾ってもらった。手話講座にもしばらく通った。通訳は無理だが、町内会のお楽しみ会などに手話ダンスや簡単な会話など伝えて楽しんでもらっている。また、現職時代夢見ていた旅行にはずいぶん行った。専ら退職互助会や退職女性教師の会などに参加し、尾道に林芙美子の足跡を辿り、青森に太宰治の斜陽館を訪ねたりと文学散歩が多かった。

さらに、それまで暇のない日々から、退職後は新聞への投稿にもむしろさそいをつけ、朝日新聞の「声」や民友新聞の「窓」などに投稿を続け、これは二十年以上続いている。三月四日付けの「野田氏の質問は核心をついていた」の掲載原稿でファイル五冊がいっぱいになった。こんなとりとめのない生活で年を重ねてしまったが、楽しみは又違った形ででき

る。常さんのようにまっすぐ進む道はすばらしい。そして又寄り道をしながらもいろいろ楽しいことをしてきた私の退職後の二十五年間も又よかったなあと思

ながら思っている。厳しい状況の中で頑張っている現職の皆さんには、忙しさに埋没することなく子どもと向き合う時間をみつけ、退職後「よいしごとだった」と思える毎日を送って欲しい。会員の皆さんの健康とご長寿を祈りつつ雑文のペンを置く。

(昭一八卒 伊達支部) P10「吾峰ギャラリー」 in 一三七号」参照



研究部長経過報告



会長あいさつ



栗原審査委員長講評



千葉学類長祝辞



会長より賞状伝達

最優秀賞 芳山小の研究の概要と特徴・意義と今後への期待

審査委員会

当该校では、子どもの資質や能力を「対象との関わり」、「仲間との関わり」、「自己との関わり」を通して育む授業実践を継続的に研究してきた。本年度はさらに、具体的な子どもの姿から今日的な課題である「自己肯定感」の育成を目指し、独自に「共創ある学び」を定義すると共に、授業づくりによる具体化として「学びを照らす」(焦点化)、「学びが見える」(可視化)、「学びがつながる」(共有化)の3点を創出した。そして、特別支援・国語・社会・算数・生活科・音楽・体育・英語表現・学級活動の計9教科・領域での実践に取り組み、具体的な子どもの事実に基づく検討を重ねた成果の蓄積が資料編の事後研究会の記録からも読み取れる。また、本論における研究の成果の記述は、やや概略的ながらも、具体的な授業の事実に基づいて記述されており、実践の成果が子どもの学びに結実した様相がわかる。

本研究で提示された授業実践を支える3視点(焦点化・可視化・共有化)は、子どもの学習過程に着目した授業デザインの視点として提案性がある。さらに、教師の授業力量に着目した点に本研究の意義がある。複雑性、不確実性を持つ授業実践を実質的に改善するためには、授業の事実に基づく省察による。

「瞬間的判断力」の向上は欠かせない。この観点からも、授業実践の成果を授業の事実に基づき記述するスタイルは一貫している。本研究の今後の課題として記述された教師の「授業力の向上」に具体的な手立てを講じることで教師の学びのデザインへの発展が期待できる。また、本研究で創出した授業づくりの視点に関する成果について、今後のさらなる追究を期待したい。



○ 務川トリ様（石川）

病気一つしないというお元気なトリさんに鈴木支部長から賀寿の表彰状を手渡し、思い出話に花が咲きました。赴任した学校の思い出、退職後の畑作りのことなど、トリさんのこれまでで歩んでこられた人生についてお聞きすることができました。



○渡刈キミ様（福島）

毎日、折り紙をしたり施設の方々と楽しくお話をしたりして過ごしているとのこと、また、若いときの闘病生活を振り返り、何事もがんすることの大切さをしっかりとした口調で話されていました。優しさあふれる笑顔が印象的でした。



◎佐藤 ヒデ様（いわき）

教員生活の一番の思い出は、平第一小学校に九年勤め、道徳などの授業研究を何度もやらせていただいた。授業力を磨いたことです。



○渡邊晋作様（安達）

退職後は五百坪余の敷地の管理に汗を流しながら、国や県等の公募にチャレンジし、数多くの賞に恵まれたことに感謝しております。

○は昨年度の贈呈者

◎は今回紹介された方

● 滝沢 トモ様
 ● 小野 田禮常様
 ◎ 佐藤 ヒデ様
 ◎ 佐久間 守勝様
 ● 大谷 泰子様
 ● 前川 愛子様
 ● 阿部 百合子様
 ● 小坂 しづ様

福伊田福郡い双伊
島達村島山わき葉達

● 古山 直一様
● 佐藤 仲子様
● 朝内 敏子様
● 齋藤 キミエ様
● 志賀 ヨシ様
● 阿部 輝行様
● 秋山 タケヨ様
● 遊佐 美寿様

郡会福郡会伊郡福
山津島山津達山島

今年度の賀寿贈呈予定者は、大正十年四月〜大正十一年三月末日生まれの方です。

平成二十八年
賀壽贈呈者

長寿 おめでとうございます



◎佐久間守勝様(郡山)

体調が思わしくなく、病院に入院のためご家族にお渡し致しました。退職後、水墨画会の講師を務められ、水墨画を広めることに貢献されました。郡山支部の高齢者表彰に、先生の絵が贈呈され、素晴らしい記念品になり喜ばれております。

五十年前の学生に戻って

三九会「古希の会」

当番長 我妻一雄

平成二七年九月、古希の
会をみやぎ蔵王ロイヤルホ

テルで開催することになり、当番地区として二つの悩みがありました。

第一点は、原発事故で苦
勞されている福島の方々に
にどれだけ参加していただ
けるだろうか。第二点は、
案内状発送直前に蔵王山火
口周辺警報の発令です。

この警報も六月十六日に解除され、七月に案内状を発送したところ、四五名（男二六、女一九）の皆さ

同期の縁を大切に！

「三九会」会長 石岡恒憲

三九会(サンキウウ会)は、昭和三十九年度福島大学芸学部幼小課程入学同級会です。(卒業時は教育学部)

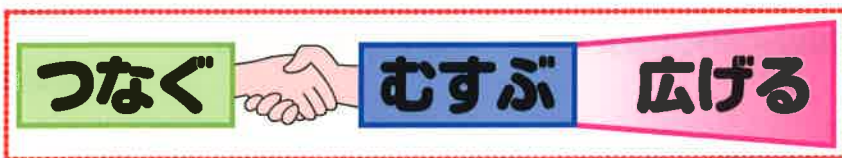
母校卒業五年後に全員に

念、退職記念、今回の古希祝いと節目の会もあり、同期の縁を大切にしてきました。授業や打ち込んでいることなどの話題から、今や薬、介護と順調に変化して

いますが、いつも学生時代の顔に戻っている気がします。幸せな時間です。喜寿米寿までと願っています。

事務局は、松浦芳孝さん、西坂和司さん、川上光男さんが担当しています。

(昭四三卒 伊達支部)



福島大学39会 古希を祝う会（平成27年9月27日）



ふくしの
はなを愛しては焼く うたを綴ぐ

花土詩の三人展

日時 2016年3月3日(木)～8日(火)
平日/9:00～17:00 土・日・最終日/9:00～16:00

会場 ふくしんギャラリー
ふくしん総合福祉センター「ふれあい通り」1F (バスター通り)
〒966-8660 福島県福島市万葉町1-2
TEL:024-528-1845 <http://www.shinkin.co.jp/fukushin/gallery.html>

◁花・土・詩の三人展

▷顧問の鈴木健一様より
心のこもった研ぎ澄ま
された便りをいただく

前略「吾峰」第一三六号、まことに拝受しました。
封筒は切子などで郵便受けに入れて、おしから
先達が直接届けて下さったものと感じました。有
難うございました。小生の拙作をカラー写真で掲載
して頂き、感謝感激でした。また他のページは果敢
会展の作品目録の表紙や会場スタッフ写真、出品した
吾峰会員の氏名など大きなスペースを割って下さり
重ねて厚く御礼申し上げます。いつも感ずることで、吾峰会の活動の様
子が手に取るようにわかる親切な編集、写真やカラーの色合いなどを適宜工夫して
読者に読める心のかう編集など、脱帽敬服でした。ご健勝と祈り、御礼まで。
草々



池のたもとに実を結んだ藪こうじ

仲間たちの「想い」発信⇄受信



第50回全日本陸上競技選手権から発信

第30回記念 モダンアート 福島支部展



2015年8月1日(土)～8月9日(日)
10:00am～6:00pm(最終日 3:00pm)

【会場】A・O・Z
アオゼ

- 明石英子 安達寛子 ○石井一夫 大橋宏記 ○大町 亨
織田千代 草野葉子 岩田倉満 ○熊田喜宣 小松太志
- 菅田七郎 ○相馬 亮 ○高橋 悠 玉川岩雄 玉川勝哉
- 橋本淳也 ○平栗洋三 古川文子 ○松本良子 間部一郎
- 宮本興一郎 やはた文明 八幡欽子 湯田弘雄
よこたこういち ○渡部 武 ○渡辺武郎 渡辺俊幸
和田直也

【支部会員 29名】

- 石川忠一 出水 徹 大島庸世 オオミダイゾー
- 桜井武人 澤井由美子 谷村敬八郎 中井幸一
- 野口真木雄 早坂 健 藤賀喜由子 三宅正広
- 村松俊夫 山内恵美子 山田展也

【賛助出品 15名】



Modern Art Association Fukushima
The 30th ANNIVERSARY!

福島県文化振興基金助成事業

会員皆様の
情報をお待ち
しております

▷P10「訂正とお詫び」参照

○印は吾峰会会員

▷福大の混声合唱団が
支部の総会にやって来た



番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
21	栗 原	藤原 諭	高橋 孝夫・佐藤 新一	〒989-5301 栗原市栗駒岩ヶ崎下小路1 栗原市立栗駒小学校 ☎ 0228-45-2171 FAX 0228-45-2198	白鳥 清文	藤原 諭 高橋 孝夫
22	本 吉	内海 輝幸	荒川 進・齋藤 一	〒988-0817 宮城県気仙沼市西八幡前54-1 気仙沼市立鹿折小学校 ☎ 0226-22-6876 FAX 0226-22-6878	豊田 康裕	内海 輝幸
23	古 川	菅原 利之	江口 正徳・藤木 伸生 児玉 輝夫	〒987-0003 宮城県遠田郡美里町 南小牛田字石神53 ☎ 0229-32-3492 FAX 0229-32-3492	佐々木勝男	菅原 利之 佐々木勝男
24	山 形	堀 泰治	矢口 勲	〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101 山形県立米沢興譲館高等学校 ☎ 0238-38-4741 FAX 0238-38-2531	猪俣 幸一	渡辺 俊三 小野 昭夫
25	千 葉	活動休止中			宝 玉 恒雄	
26	新 潟	白井 民司	堰 勝弥	〒950-2044 新潟県新潟市西区 坂井砂山四丁目9-11 ☎ 025-269-4022 FAX 025-269-4022	松井 等	白井 民司 松井 等
27	愛 知	伊勢呂彰治	齊藤 俊徳・大高 和人	〒491-0903 愛知県一宮市 八幡四丁目1-97-708 ☎ 0586-43-7284 FAX 0586-43-7284	山田 稔	伊勢呂彰治 山田 稔
28	岩手県	小野寺 寛	浅沼 清昭・高橋 一男	〒023-0826 岩手県奥州市水沢区 中田町1-5 ☎ 0197-24-9157	高橋 悦郎	小野寺 寛 高橋 悦郎
29	北海道	市澤 豊	菊地 磯夫	〒002-8071 札幌市北区あいの里1条 3丁目21-20 ☎ 011-778-7662 FAX 011-778-7662	帰家 雄治	市澤 豊 帰家 雄治

寄贈図書を紹介

- 「教育の機会均等に挑む」
・寄贈者：市澤 豊様
- 「執筆・寄稿2000 2015記録集」
・寄贈者：高濱 兼二様
- 文集「うけど」 請戸小学校物語
・寄贈者：小山智恵子様
- いずみ第38号 水沢読書連絡会編
・寄贈者：小野寺 寛様

※ありがとうございました。
大切に保管し、活用させていただきます。

ホームカミングデーの予告

- 平成28年10月29日(土)

※例年参加者が少ないようです。
懐かしい仲間と連絡を取り合ってぜひ、
金谷川のキャンパスに集合しましょう。

昨年の
ホームカミングデー



同窓吾峰会 相馬大会参加のご案内

- ☆期 日 平成28年10月8日(土)
- ☆会 場 相馬市「ウェディングパーク相馬フローラ」
- ☆参加費 5,000円(懇親会費を含む)
- ☆内容・時程・交通案内等
詳しくは、案内状を文書で各支部へ
※浜通り「相馬」の地で、大震災の復旧復興をめざし、
多くの元気な顔が集えますように。

訂正とお詫び

前号(136号)に間違いがありましたので、以下のように訂正します。大変ご迷惑をおかけしました。心からお詫び申し上げます。

今後は、十分注意をしながら編集してまいります。お気づきの場合はご指摘・ご指導をお願いいたします。

○P⑧賀寿贈呈者の氏名で、大正10年4月以降に誕生された方を紹介してしまいました。

○P⑨仲間たちの「想い」発信⇔受信で、モダンアート展を本号に再掲し直しました。

○P⑩会員のお名前見ました・聞きました…㊟「脈」FUKUSHIMA展出品者に追加します。

- ・秋山 忠也 ・阿部 洌 ・安齋 重夫 ・太田 隆明
- ・奥山 陽介 ・小原 節子 ・国島 敏 ・黒沼 令
- ・小荒井勇人 ・佐藤 鎮雄 ・中原 勝 ・羽根真実子
- ・深谷 滉 ・深田 茂 ・真柴 毅 ・油井ひろ子
- ・渡辺 永子

平成28年度 同窓吾峰会支部組織一覽

(平成28年7月15日現在)

番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
1	福島	矢館 清孝	伊東 久男・野崎 修司 今野 滋子・土屋 悦男 山縣 眞二	〒960-8062 福島市晴明町9-31 福島市立清明小学校 ☎ 024-523-3544 FAX 024-524-1014	高橋 正之	矢館 清孝 野崎 修司
2	伊達	松浦 常雄	坂内 明生・酒井 方子 伊藤久美子	〒960-0501 伊達市伏黒字土井ノ内42 伊達市立伊達東小学校 ☎ 024-583-3204 FAX 024-583-2233	伊藤久美子	松浦 常雄 坂内 明生
3	安達	宮前 貢	菅野 玲子・本多 長 安田喜市郎・菅野 藤雄 福本 隆	〒964-0904 二本松市郭内一丁目1 二本松市立二本松北小学校 ☎ 0243-23-0029 FAX 0243-23-0012	伊藤 栄	宮前 貢 伊藤 栄
4	郡山	柳沼 秀雄	渡辺 文男・高橋 康彦 柴崎 茂・武藤 英明	〒963-0112 郡山市安積町成田字北山崎18-3 郡山市立安積第三小学校 ☎ 024-945-8700 FAX 024-945-7978	吾妻 敦	柳沼 秀雄 工藤 博
5	岩瀬	力丸 丈夫	力丸 次雄・渡部 修一 柴原 節子	〒962-0201 須賀川市志茂字六角5 須賀川市立長沼中学校 ☎ 0248-67-3155 FAX 0248-67-3199	遠藤 彰	力丸 丈夫 力丸 次雄
6	石川	鈴木 英孝	高原 栄征・南條 正喜	〒963-6204 石川郡浅川町浅川字荒町108 浅川町立浅川小学校 ☎ 0247-36-2029 FAX 0247-36-4775	真田 秀男	鈴木 英孝 真田 秀男
7	田村	山内 敏夫	柳沼 照栄・先崎 憲一 渡邊 勝雄	〒963-7759 田村郡三春町字大町157 三春町立三春小学校 ☎ 0247-62-3101 FAX 0247-62-3106	太田 文枝	山内 敏夫 太田 文枝
8	西白河	齋藤 邦光	圓谷 厚子・白根 一英 佐藤 正弘	〒961-0922 白河市菖蒲沢41-1 白河市立白河第一小学校 ☎ 0248-23-3240 FAX 0248-23-3241	角田彰三郎	齋藤 邦光 圓谷 厚子
9	東白川	根本 忠義	奥貫 洋・萩原 照夫 菊地 好博	〒963-5683 東白川郡棚倉町下山本字桃木田34 棚倉町立近津小学校 ☎ 0247-33-2154 FAX 0247-33-2175	菊地 好博	根本 忠義 萩原 照夫
10	会津	湯野尻 强	阿部 重孝・黒沼 淳子 佐瀬千代子・目黒 則雄 田中 淳	〒965-0875 会津若松市米代一丁目5-33 会津若松市立謹教小学校 ☎ 0242-28-2100 FAX 0242-29-3405	穴澤 眞澄	湯野尻 强 阿部 重孝
11	耶麻	矢部 有一	大堀 淨一・鈴木 茂郎 青山 邦夫	〒966-0806 喜多方市水上6868 喜多方市立第一小学校 ☎ 0241-22-2103 FAX 0241-23-1673	渡部 憲生	矢部 有一 大堀 淨一
12	大沼	児島 昌詮	北館 長一・石井 幸雄	〒969-6262 大沼郡会津美里町法幢寺南甲3505 会津美里町立高田小学校 ☎ 0242-54-2242 FAX 0242-54-2272	佐原 健一	児島 昌詮 石井 幸雄
13	河沼	新井田明義	山内 聖子・角田七兵衛	〒969-6553 河沼郡会津坂下町字石田甲650 会津坂下町立坂下南小学校 ☎ 0242-83-2046 FAX 0242-83-0966	佐藤 賢一	新井田明義 山内 聖子
14	南会津	渡部 雄次	五十嵐利明・齋藤 修一	〒967-0004 南会津町田島字会下甲3316 南会津町立田島小学校 ☎ 0241-62-0042 FAX 0241-62-3220	川島 敬章	渡部 雄次 五十嵐利明
15	いわき	片寄 秀雄	笹川 直樹・矢内 金五 金内 三郎・沢 宏一 田村 尚	〒970-8026 いわき市平字梅香町7-1 いわき市立平第二小学校 ☎ 0246-23-2413 FAX 0246-23-2414	新家 伸敏	片寄 秀雄 新家 伸敏
16	相馬	長谷川伴七郎	高橋 清・持館 昭彦	〒975-0049 南相馬市原町区大甕字鶴蒔8 南相馬市立大甕小学校 ☎ 0244-22-3881 FAX 0244-24-2096	江上 君子	長谷川伴七郎 江上 君子
17	双葉	遠原 肇一	草野 巍久・紺野 廣光 小山智恵子	〒971-8182 いわき市泉町滝尻字定ノ田160-2 (臨時事務局 吉田事務局長宅) ☎ 0246-84-8509 FAX 0246-84-8509	吉田 弘見	遠原 肇一 吉田 弘見
18	東京	島貫 金雄	荒木 俊夫・田中 悦子	〒185-0014 東京都国分寺市 東恋ヶ窪2-31-21 ☎ 042-321-2277 FAX 042-321-2277	島貫 金雄	島貫 金雄 荒木 俊夫
19	仙台	結城 正芳	伊藤 宗男・熊谷 和彦 吉田 利弘	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-5-12 仙台市教育局教育人事部教職員課 ☎ 022-214-8870 FAX 022-214-8849	花淵 浩司	結城 正芳
20	大河原	高橋 宏一	小野 琢磨・庄司 幹雄 森 貢喜・大沼 章	〒989-0916 刈田郡蔵王町遠刈田温泉字小妻坂山25 蔵王町立遠刈田小学校 ☎ 0224-34-2104 FAX 0224-34-2163	眞壁 仁	高橋 宏一 眞壁 仁

特集
あれから六年め…Ⅱ

今、学校現場では

あれから六年目の佐原

福島市立佐原小学校長

矢 吹 善 雄

我が福島県は、平成二十三年三月十一日、未曾有の東日本大震災・巨大津波、そして、原発事故の被害を受けました。

本校は、その年の四月六日に、区域外就学児童七十五名を迎え入れ、全校生百三名、六学級で教育活動を始めました。平成二十二年度が全校生三十四名、二年がなく、三・四年が複式学級の四クラスでしたので、二十三年度は前年度の三倍位の規模となりました。

平成二十三年度の教育活動をスタートさせるにあたり、教室や机・いすといった学習環境の準備、ランドセルや上履き等の学習するのに必要な物品の準備、その他入学式の準備や通学についての保護者説明会や通学班の編制等、いろいろな対応を求められました。しかし、保護者や多くの皆様のご支援・ご協力があり、無事に入式や始業式を行

うことができました。

この年は、たくさんの方が支援や激励のために、本校に來校されました。現在イタリアサッカーで活躍しているACミラン所属の本田圭佑選手や世界的に有名なオノ・ヨーコさんが來校され、子どもたちとあたたかく交流された記録や記念品が現在も残っています。

平成二十四年度の規模は、全校生が三十九名、四年がなく、五・六年が複式の四クラスでした。平成二十三年度の一年間で、本校に避難した児童の多くが、新たな生活への期待を胸に、他



さつまいもの苗植え

の市町村、そして、別の学校へ転出しました。

平成二十八年度の規模は、全校生二十七名、完全複式の三クラスです。区域外就学児童は六年生の児童二名だけとなりました。この二人は、平成二十三年度の四月に入學した児童です。現在、福島市中心市街地に住み、毎日三十分位かけて、本校まで保護者の車で通学してきます。

教育活動は、原発事故前と変わらずに進めることが

できています。先日、秋の収穫祭に向けて、学校田で田植えをし、学校の畑にサツマイモの苗を植えました。

収穫祭では、本校教育をあたたく支えてくださる保護者や佐原地区の皆様をお招きし、餅やサツマイモ料理を食べていただきながら、感謝の気持ちを伝えたいと考えています。学校・保護者・地域がともまともりある佐原小学校へいつでも転入してきてください。(昭五八卒 福島支部)

富岡一中三春校の今

富岡町立富岡第一中学校長

阿 部 洋 己

平成二十三年三月十四日から八月三十一日まで、学校は東日本大震災・原子力災害による避難のため「臨時休校」となっていました。

数は一〇名で、震災直前の約二六〇名から大幅減少となっています。三春校の今を象徴する三つについて、以下に紹介します。

幼・小・中合同の取組

平成二十七年より、幼稚園や小学校と、運動会や学習発表会を合同で実施しています。中学生が、幼稚園生や小学生の世話をするなどしながらの活動は、単に幼稚園生や小学生に発表することとは違って、良き見本となろうとする精神的な成長に、プラスに影響していると思われます。



二つのバドミントン部

平成二十七年六月には仮設体育館が完成し、三春校でも卓球部とバドミントン部、そして総合文化部の三つの部活動が平成二十七年六月より活動を始めています。本校には、震災以前から全国大会での優勝等の活躍しているバドミントン部があります。避難により猪苗代中学校にお世話になり活動を継続しています。(生徒は、富岡町からの区域外就学で猪苗代中学校に在籍していますが、部活動

は、富岡第一中学校バドミントン部として、猪苗代中学校のバドミントン部とは別に活動をしています。)このため、平成二十七年六月より、三春町と猪苗代町にそれぞれ富岡第一中学校バドミントン部が存在することになりました。

ふるさと創造学への取組 双葉郡内の小・中・高校では、「ふるさと創造学」という、ふるさとを知り、将来のふるさとを創造しようとする学習を、総合的な学習の時間を中心に推進しています。ふるさと富岡町での生活が、小学校の低学年までであった生徒たちにとって、富岡町を理解する貴重な学習となっています。双葉郡内の合同発表会でもある「ふるさと創造学サミット」は、今年も十二月に実施する予定です。(昭六二卒 平九院修 双葉支部)

P③ 特集「あれから六年め…Ⅱ」関連

『うけど』

～震災から6年経つ子どもたち・わたしたち～



浪江町立晴戸小学校

文集「うけど」表紙 縮小版

会員の お名前

見ました
聞きました

① 渡辺 晋作

② 吉岡 榮一

③ 和合 亮一

④ 近野 典男

⑤ 道川 千穂
⑥ 若松丈太郎

⑦ 木村 史希

⑧ 熊川 恵子
⑨ 高橋 幸子
⑩ 木村 吉幸
⑪ 大室 聡



① 内閣府官報より



② 5/9 福島民友



【女子400m障害決勝】56秒62で優勝し、リオ五輪代表を決めた久保倉里美＝パロマ瑞穂スタジアム

③ 6/27 福島民友



学んだ技術を生かして静物画を描く参加者

④ 高濱兼二さんによるダリ作品の技法指導 5/16 福島民報

⑫ 遠藤 雄幸

⑬ 奥貫 洋

⑭ 佐藤 正敏

⑮ 小野寺 寛

⑯ 小野 義明

⑰ 本田 樹

⑱ 山下 潤子

⑲ 三浦 哲夫

⑳ 高濱 兼二

㉑ 片平 仁

㉒ 川本 和久

㉓ 浅野 雅己

㉔ 小山智恵子

㉕ 井村久美子

㉖ 久保倉里美

㉗ 安部 遥香

㉘ 日本画院展・佐藤 常(賞候補)、小松伊勢子(入選)

㉙ 福島県総展・白石 豊(社会貢献)、川本和久(教育)

㉚ 福島県総展・川田正裕(洋画・佳作) 鈴木健一(書・佳作)

㉛ 消防功労者・岡田 務教授、伊藤 峻、橋本晴香、蛭

川内村長選 無投票四選。全村避難解除受け入れ

県町村教育長協議会会長再任

県町村教育長協議会幹事

「好日難想」胆江日日新聞コラム欄

「希望の灯り」等多数

県都市教育長協議会副会長新任

県都市教育長協議会監事再任

福大附属幼稚園で人形劇団ひとみ座公演時に人形作りの指導

福島県川柳連盟会長に就任

諸橋近代美術館「絵画教室」講師

伊達市梁川美術館で「片平仁展」

「川本ジュニア塾」福大でスタート

「日経スペシャルアジアの風」小さな挑戦者たちで紹介。岐阜県在住

「文集がつなぐ子どもたちと故郷」

浪江町立請戸小学校

陸上日本選手権テレビ中継解説者

① 田恵理(三名は、いずれも本学類四年) 彦ミキ子、藤田伸朗

② 「陶伸窯のなま展」出品者…本田 孝、我彦 武、我彦 三子、藤田伸朗

③ 「版画グループ展」出品者…川田正裕

④ 東北学生対抗陸上選手権…安部遥香(短距離等四冠) 優勝者…鈴木真吾(走り高跳び)、青木成美(走り幅跳び)、高橋英里(三段跳び)、荒 裕子(やり投げ)、原 菜月・山下愛美・安部遥香・新宮美歩(四×百リレー)

⑤ 花・陶芸・詩で福島を伝える「三人展」…藤田伸朗、高橋重義

平成28年度 同窓吾峰会本部役員名簿

役職名	氏 名
顧問	鈴木 健一
	服部 秀文
	千葉 養伍
会長	齋藤 正寛
副会長	柳 沼 秀雄
	湯野尻 强
	長谷川 件七郎
監事	鈴木 絢子
	柴崎 茂
常任理事	千葉 金之助
	峯 島 和彦
	吉川 哲也
	高野 光揚
	矢 館 清孝
	熊田 喜宣
	平野 哲哉
	長澤 徳子
	関場 弘子
	松浦 芳孝
理 事	野崎 修司
	近藤 博之
	鈴木 信光
	込 堂 啓子
	菅野 和昶
	清野 要
	大竹 明
	飯沼 信一
	木村 吉幸
	伊藤 隆司
	鈴木 昭雄
	丹野 学
	根本 眞
	菅野 諭
	鶴 卷 正子
	山 寺 精吉
	川崎 康宏
	佐久間 裕晴
	菅野 善昌
	山 縣 眞二
	佐藤 和彦
	大石 正文
	大越 一也

役職名	氏 名
幹事	高橋 重義
	持地 隆一
	関口 史子
	笹川 二郎
	我彦 武
	吉田 貴史
事務局	澤藤 晃治
	梅津 浩子

総務部

役職名	氏 名
部長	千葉 金之助
副部長	峯 島 和彦
会長	齋藤 正寛
部 員	吉川 哲也
	高野 光揚
	矢 館 清孝
	熊田 喜宣
	平野 哲哉
	関口 史子
	梅津 浩子

庶務部

役職名	氏 名
部長	吉川 哲也
副部長	峯 島 和彦
事務局	松浦 芳孝
	吉田 貴史

会計部

役職名	氏 名
部長	高野 光揚
副部長	関口 史子
事務局	我彦 武
	澤藤 晃治

組織部 組織強化委員会

役職名	氏 名
委員長	矢 館 清孝
副委員長	関場 弘子
委 員	込 堂 啓子
	熊田 喜宣
	菅野 和昶
	野崎 修司
担当幹事	高橋 重義
	持地 隆一
	我彦 武

研究部

役職名	氏 名
部長	熊田 喜宣
副部長	笹川 二郎
部 員	木村 吉幸

広報部 会報編集委員会

役職名	氏 名
委員長	平野 哲哉
副委員長	高橋 重義
委 員	石岡 恒憲
	鶴 沼 秀雅
	黒津 忠勝
	伊藤 きみ子
担当幹事	持地 隆一
	笹川 二郎

広報部 ホームページ委員会

役職名	氏 名
委員長	高野 光揚
副委員長	野崎 修司
委 員	阿部 隆
	馬場 秀之
	富田 元久
担当幹事	高橋 重義

積立金管理運営委員会

役職名	氏 名
委員長	長澤 徳子
副委員長	関口 史子
委 員	安田 茂
会計部	会計部欄参照

〈事務局への連絡方法〉

電話の場合 下記の電話番号へ

- ・曜日（火、水、木、金）
- ・時間（A.M.10:00～P.M.4:00）
- ・事務担当者（梅津 浩子）

* 曜日や時間が振替の時もあります。

Fax、E-Mailの場合 常時・下記へ

会報「吾峰」の原稿や作品等の送り先

宛先・連絡先

福島大学人間発達文化学類

同窓吾峰会

〒960-8103 福島市舟場町4-30

福島大学街なかブランチ舟場

電話 024-529-7081

FAX 024-529-7082

Eメール gohou@ktd.biglobe.ne.jp

会報「吾峰」へのご応募は
下記でも受け付けています。広報部長・会報編集委員長 平野 哲哉
〒960-0112

福島県福島市南矢野目字原下9-19

電話 024-553-6385

携帯 090-4041-4389

平成27年度 福島大学人間発達文化学類
卒業生クラス代表一覧

クラス名	氏名
学 習 支 援	高 橋 正 充
教 育 探 究	大 橋 矢
人 間 科 学	車 田 梓
特 別 支 援	福 土 大 喜
子 育 て 支 援	鯨 岡 真 歩
言 語 文 化 (国 語)	菅 野 将 也
言 語 文 化 (英 語)	江 花 理 奈
地 域 生 活 文 化 (社 会)	鈴 木 瞳
地 域 生 活 文 化 (家 庭)	横 山 阿由美
数 理 科 学	斉 藤 知 暉
ス ポ ー ツ 探 究	福 永 祐一郎
生 涯 ス ポ ー ツ	菅 野 真 平
芸 術 文 化 (音 楽)	八 巻 和 也
芸 術 文 化 (美 術)	尾 形 采 花

人間発達
文化学類だより

母校 福島大学の今

福島大学 教職大学院

大学院人間発達文化研究科教職実践専攻

平成二十九年四月開設(予定)

目的……「ふくしまの教育を支える」

「学校現場の教育課程を研究し、その成果を地域や現場に還元していくことで、教員としての資質・能力向上をめざす」

特徴1 四つの資質・能力を育成します。

特徴2 福島未来を創造する独自の教育を創造します。

特徴3 いま学校現場にある課題解決を図ります。

福島大学役職員等

(平成二十八年四月一日現在)

○学 長 中井 勝己
○副学 長 中田 スウラ
○副学 長 三浦 浩喜
○副学 長 小澤 喜仁
○副学 長 真田 哲也
○副学 長 千葉 悦子
○事務局長 若井 祐次
(以下…人間発達文化学類)
うつくしまふくしま未来支
援センター長 初澤 敏生

人間発達文化学類長

千葉 養伍

附属幼稚園長 渡辺 正子

附属小学校長 鶴巻 和久

附属中学校長 川本 操

附属特別支援学校長 飛田 操

教育研究評議会評議員 谷 雅泰

朝賀 俊彦

平成二十七年年度

学生表彰者

(敬称略)

団体の部

○男子バレーボール部

○福島大学陸上競技部

個人の部

*文化・芸術等の分野

*深谷悠里絵

*スポーツの分野

*陸上競技

・新宮 美歩

・川崎 翔子

・山本 千裕

・角田 拓也

・鈴木 真悟

*学業・研究業績の分野

・三瓶 美紀

・中島 慎輔

福島大で期日前投票

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことに伴い、福島市選挙は30日、若者の投票機会を増やそうと、福島市の福島大に県内の大学で初めて参院選の期日前投票所を開設した。学生らは投票所に足を運び、1票に思いを託した。投票所は1日まで設置される。

大学会館2階に設けられた投票所には、授業の合間や昼休みの時間を中心に学生が訪れた。行政政策学類2年の藤田剛志さん(19)は友人を誘って1票を投じた。藤田さんは「有権者となり投票することに対する責任を実感した」と話した。投票時間は午前10時から午後5時まで。地域住民も利用できる。



学内に設置された期日前投票所で1票を投じる学生(左) 30日午後0時35分すぎ、福島大

平成27年度福島大学
人間発達文化学類第8期生

卒業祝賀会

▷ 日 時…平成28年 3 月25日(金) 15:00～17:00

▷ 場 所…福島市 ウェディングエルティ 2F ハートン・シエラルーム

▷ 出席者…ご来賓10名(中井学長、三浦副学長、千葉学類長、後援会代表、学生会代表等)、大学教員18名、卒業生225名、主催者事務局21名



会長あいさつ



学類長祝辞



大学長祝辞

会は、明るく和やかに、
そして、華やかに進行了た。
学生歌斉唱、万歳三唱に
新しい希望の船出の勢いを
実感し合いながら閉会した。

学生歌斉唱
万歳三唱
湯野尻副会長
柳沼副会長
閉会のことば

（代表名は、P⑮に紹介）
乾杯 長谷川副会長
学生表彰者紹介（P⑮紹介）
千葉事務局長

千葉学類長
来賓紹介
長澤常任理事
卒業生クラス代表紹介

開会のことは
挨拶
祝辞
鈴木監事
齋藤会長
中井学長

千葉金之助事務局長の進行で、次の順序で進められた。

盛会裡に開催!!

互真 de 紹介！



三浦副学長等来賓の方々



卒業生クラス代表（P⑮参照）



「花二題」

八卷 良子

(昭二八卒 伊達支部)

P
⑦ 参照



吾峰ギャラリー in 一三七号

編輯後記

▽①面「福島を訪ねる」は、岩手県支部の研修旅行の金谷川キャンパスでの記念写真です。数々の交流で感動場面があり、今の一三七号に掲載したいと努めました。紙面と編集時間の都合で断念しました。次号で詳しく紹介します。

▽特集「あれから六年め……」
ⅠとⅡに分かれてしまい読みにくい編集になりました。
学校現場の状況がひしひしと伝わってきますので、熟読・判読願います。

▽「新たな道」では、それぞれの分野で新鮮な活躍の場面が読み取れます。特に、県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」は、今

年の七月下旬にオープンしました。また、今春母校を卒業して福島県内に採用された二名のフレッシュな文章と写真も紹介しました。

「『想い』発信・受信」「お名前見ました」「聞きました」「長寿おめでとうございました」

す」「母校や学類のたより」「想い出」「趣味」「随想」等々の原稿・作品・情報などの応募をぜひお願いします。

▽次年度は、本会創立百三十周年に当たります。今年

十周年に当たります。今年度の「相馬大会」は、記念大会へつなぐ意義深い大会となりますように願っています。

▽長い間、編集委員会をリードして来られた喜古亮前広

報部長が逝去されました。「恩送り」として受けた恩を次に送っていく覚悟です。ご冥福をお祈りいたします。

(平野)